

姫たちの戦国

徳川秀忠の妻お江①

一龍斎貞花

講談師

中国では古来「白兔寿千年」といって瑞兆のお目出度い年。元気で永生きを表しています。健康に留意して雲の切れ間有りや無しやの1年。頑張ってください。

サテ、今年の大河ドラマは「お江」。一昨年こぞの篤姫を凌駕する。浅井あざい美女三姉妹が戦国時代を彩り、正に女性パワーの年となるかもしれませんぞ。パパンパン

「殿、お市様から陣中お見舞いが届きましてございます」

「おう、小豆あずきを送ってくれたか。ウム？袋の両端がしばってあるぞ」

「申し上げます。浅井あざい長政謀叛を」

「そうか、両端をしばって袋のねずみと報せてくれたのだ」

政略結婚の場合、非常の際実家へ手紙を出す時検閲がある。そこでお市は、陣中見舞に袋の両端をしばって報せた。

夫婦仲睦じく3人の子どもに恵まれて

いるものの、実家のために尽くすのも政略結婚の女性の務めでもあった。

妹のお市を嫁がせ同盟を結んだが、信長の朝倉攻め。浅井は以前朝倉に助けられた恩義があり、父久政は朝倉との同盟を重んじ信長攻めを決定。前後に強敵。流石の信長も顔色を失った。この時木下藤吉部秀吉が、「手前しんがりが殿を務めます」朝倉の大軍を防ぎ止め、信長は命からがら逃げ帰ることが出来た。秀吉が、信長から信頼を得たのはこの殿しんがりを果たしたから。危急の時逃げ出さずにふんばってくれる部下を持ちたいものですね。

おだに 小谷落城

姉川の合戦に、朝倉は織田・徳川連合軍に敗北。長政は小谷おだにに籠城。堅固な山城。そこで秀吉は浅井の出城を守る部将を次々と凋落。裸城となるや果敢に攻め3年を費やしたが遂に小谷落城。同盟関係が破綻したり手切れとなった時、妻は実家に戻されるのが政略結婚の普通。お市は夫とともに死を望んだが、7歳の長女茶々、4歳の二女お初、戦いの最中に生まれたばかりのお江、3人の娘と共に信長の元へ帰されます。側室の子10歳の万福丸は城を逃れ出たものの見つけ出され、秀吉の命によって串刺しに処せられ、信長は、朝倉義景、浅井久政・長政親子の頭蓋骨を漆で固め金泥を塗り、正月の祝い席で祝ったのでございます。愛する夫の

シャレコウベを着にされたお市の胸中いかばかりだったことでしょう。

目上で美人好みの秀吉は、良妻ねねがいるにもかかわらず、戦国一の美女といわれるお市を側室にしたいと企みます。

信長の首塚と神社

明智光秀の反逆により本能寺に於いて信長は自刃。この時供をしておりました原志摩守宗安が、本因坊日海上人の指示により首を持ち出し、現在の富士宮市芝川町、西山本門寺の境内に葬り現在首塚が建てられ、毎年11月第2土曜日に、信長公黄葉まつりが行われており、信長の首は不明といわれていますが首塚があり、明治天皇創建の信長を祀る建勲神社が京都船岡山に、支社が将棋の駒でおなじみの天童市、ここは二男信雄系の天童織田家の領地、この2ヶ所があり、信長の首塚と神社は、ご存じない方が多いと思いますが現存しております。

秀吉は毛利と和議を結び、中国大返しにて光秀を倒し、後継者に長男信忠の子でわずか3歳の三法師を押し立てます。

秀吉が光秀をそそのかして信長を殺させ、そうして天下を手に入れたという説を唱える人がありますが、信忠が、父信長が危いと駆けつけた結果、二条城で明智軍に包囲され自刃、この時駆けつけなかったなら、十万の軍勢を率いて武田勝頼を滅亡させた26歳の信忠が生きていれ

ば信長の後継ぎは信忠で決まったでしょうから、秀吉にとって信忠が死んでくれたことが好運だった。二男信雄^{のぶかつ}ほんくら、三男信孝^{かんとく}は神戸家の養子とあって三法師を押し立てることが出来た。

遠い越前にあって主君の甲合戦に参加出来なかった筆頭家老柴田勝家は、信孝を推挙したものの秀吉の策略によって三法師と決定し、秀吉は思うがままに領地を決めていき、面白くない信孝はお市に「叔母上、父亡き後秀吉の横暴な振る舞い。このままでは織田家は乗っ取られましよう。しかも叔母上を側室にしたいとの噂も。秀吉に対抗できるのは勝家。柴田殿に輿入れして頂けませんか。二人は犬猿の仲、叔母上のためにも、織田家のためにも働いてくれましよう」

「夫を殺し、後継ぎの万福丸を殺した仇、おまけに私を側室にしたいとは。猿面冠者の思うようになってよいものか」

「お市様が勝家めと、おのれ勝家め」

勝家は主人の妹を妻に迎え、3人の娘をきちんと成長させなければと可愛がります。しかし賤ヶ岳の戦いに敗れ、燃え盛る北ノ庄城に於いて勝家と共にお市自刃、わずか6ヶ月の短い幸せ、お市37歳。17歳の茶々、16歳のお初、11歳のお江は、2度の落城と父を失い、秀吉の元に預けられ、茶々は仇秀吉の側室に、江は3度の結婚によって運命が大きく展開しようというお話。次回連続に。